

首里城講座 平成29年度実施報告

1. はじめに

一般財団法人沖縄美ら島財団では、首里城に関する歴史・文化を普及啓発し、県民にその理解を深めてもらいながら関心を持っていただき、首里城公園の利用促進を狙う目的で首里城講座を実施した。

平成29年度は首里城公園が開園25周年、沖縄県立博物館・美術館が開館10周年を迎えた年で、両施設で連携した企画展が開催された。首里城講座も企画展と連携した講座を開催した。

2. 平成29年度首里城講座 一覧

(1) 第1期 (平成29年7月14日・21日・28日、各回金曜日 17:00~18:30)

- ① 第1回 講 師：上江洲 安亨 ((一財) 沖縄美ら島財団 総合研究センター 琉球文化財研究室長)

テー マ：「首里城の25年 平成の復元 新たなる遺宝～財団新収蔵品について～」

参加者数：31名

- ② 第2回 講 師：平川 信幸 (沖縄県教育庁 文化財課 主任専門員)

テー マ：「琉球絵画の世界」

参加者数：23名

- ③ 第3回 講 師：輝 広志 (一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課 調査展示係)

テー マ：「描かれた首里・那覇」

参加者数：24名

(2) 第2期 (平成29年8月18日・25日・9月1日・8日・15日、各回金曜日 17:00~18:30)

- ① 第1回 講 師：新垣 力 (沖縄県立埋蔵文化財センター 調査班 主任専門員)

テー マ：「首里城跡・円覚寺跡の発掘調査で得られた復元整備情報」

参加者数：36名

- ② 第2回 講 師：仲座 久宜 (沖縄県立埋蔵文化財センター 調査班 班長)

テー マ：「発掘からみえる中城御殿のくらし」

参加者数：37名

- ③ 第3回 講 師：宮城 奈々 (一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究センター 琉球文化財研究室)

テー マ：「色と糸が語る琉球王国の染織文化」

参加者数：31名

- ④ 第4回 講 師：平田 美奈子 (沖縄県立芸術大学附属研究所 共同研究員)

テー マ：「紅型模様の構造」

参加者数：27名

- ⑤ 第5回 講 師：仲嶺 絵里奈(一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究センター 琉球文化財研究室)

テー マ：「琉球の漆芸文化～沖縄美ら島財団所蔵品を中心に～」

参加者数：24名

(3) 第3期 (平成29年12月1日・8日・15日、各回金曜日 17:00~18:30)

- ① 第1回 講 師：上江洲 安亨 ((一財) 沖縄美ら島財団 総合研究センター 琉球文化財研究室長)

テー マ：「絵師の役割～漆器・紅型図案・御後絵・事件ドキュメント～」

参加者数：29名

- ② 第2回 講 師：輝 広志 (一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課 調査展示係)

テーマ：「御後絵とその彩色模写復元について」

参加者数：17名

③ 第3回 講 師：仲嶺 絵里奈（一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究センター 琉球文化財研究室）

テーマ：「琉球王国時代の絵師と図案～鎌倉芳太郎写真資料を通して～」

参加者数：20名

(4) 第4期 (平成30年2月9日・16日・23日、各回金曜日 17:00～18:30)

① 第1回 講 師：山田 葉子(那覇市歴史博物館 非常勤主任学芸員)

テーマ：「紅型の技法について」

参加者数：13名

② 第2回 講 師：倉成 多郎(那覇市歴史博物館 主任学芸員)

テーマ：「沖縄の焼物の技術と技法」

参加者数：8名

③ 第3回 講 師：岡本 亜紀(浦添市美術館 学芸員)

テーマ：「琉球漆器の技法－堆錦を中心として－」

参加者数：8名

(5) 第5期 (平成30年3月2日(金) 17:00～18:30)

① 第1回 講 師：久場 まゆみ(一般財団法人 沖縄美ら島財団 琉球文化財研究室 係長)

テーマ：「琉球食文化の継承～“琉球料理 美榮”を中心として～」

参加者数：28名

3. 受講者の声

- ・とても興味深く今までと「視点を変えて」展示を見学することができそうです。
- ・染料や糸についての説明は初めてなので勉強になりました。
- ・琉球絵画の講座がとても良かった。今後も開催してほしい。刀剣についての講座も聞きたい。
- ・とても面白かった。なぜ中城御殿が移設したか知りたい。
- ・収集しているのはとても大切で良いことだと思った。
- ・講座中は園内放送を切ってほしい。
- ・模様など細かいものは、拡大して見やすいようにしてほしい。
- ・一部カラーにするなどレジュメを工夫してほしい。

4.まとめ

第1、2期は25周年の企画展と連携した講座で、首里城公園、沖縄県立博物館・美術館での企画展への理解を深める講座を開催した。平成29年度の講座で特筆すべきは、第2期第3回、第3期第2回、第5期第5回で一般財団法人沖縄美ら島財団が調査研究を行っている事業の経過報告ができた点があげられる。過年度は外部から講師を招聘、または財団学芸員が講師を務めた場合でも企画展の解説などが中心であった。純粋に財団事業の調査の成果を報告できたのは今年度が初めてであり、今後も最新の調査成果を報告する機会を設けていきたい。

一方参加者は定員の約8割であった。首里公園年間パスポート保有者へ「首里城通信」の季刊誌化に伴い、首里城に関心のある層へ告知の機会が大きく減ってしまったことが受講者減の要因として考えられる。告知機会が減った他にも魅力あるテーマやタイトルの設定、新たな層への告知など工夫をしていく必要がある。

新たな取り組みや他の事業との連携ができた一方、告知という課題が昨年に続き残った。次年度は告知の機会を逃すことなく、また工夫をしてより多くの方々に普及していきたい。